エピソードトークにおける笑いを起こす間の取り方

福田 竜也

本研究では，エピソードトークにおける話し手の間の取り方が，聞き手が感じる面白さに与える要因を明らかにするために，お笑い芸人の話を笑いが起こった話と起こらなかった話に分類し解析した．エピソードトークとは，過去に体験した面白い出来事を他の人に面白おかしく話すことであり，話の面白さには内容と話し方の 2 つの要因が考えられる．多くの研究は内容に注目しているため，本研究では話し方に関する定量的な特徴を扱った．

現代社会は，技術が発達し便利な世の中になっている一方で，ストレス社会ともいわれている．そのストレスの原因として健康と人間関係が挙げられる．その対処法として有効なのが，笑いである．例えば，笑うことで血流が増え心疾患にかかわる動脈壁硬化が緩和されることや，オキシトシンが分泌され信頼感が強まることが明らかになっている．このように笑いはストレスの原因に対処する有効的な手段であるが，実際に人を笑わせるのは難しい．

解析した特徴量は，間の長さ，発話の長さ，発話速度，間の位置，間と発話の相関である．本研究では間の位置として，笑いが起こる直前のオチの部分に注目した．オチは話の最後に来るものであり，最長で 3 回に分けて発話しているものがあったため，オチ前の発話と間を話の終わりからそれぞれ 3 つずつとし，それ以外と比較を行った．

解析の結果，笑いが起こった話は間が長く発話が短かった．聞き手に与える情報量を少なくするため発話を短くし，与えられた情報を解釈し整理するため間を長くすることで，聞き手にイメージをさせて話への没入感を高めていると考えられる．また，笑いの有無に関わらず間と発話の長さに相関はなく，それぞれの変化によってリズムを作り出していると考えられる．笑いが起こった話では，間の分散が大きく発話の分散が小さいという傾向が見られた．発話ではなく間の変化で話のリズムを作っている理由としては，本来無の時間である間に長短によって意味を持たせることが出来るためだと考えられる．

次に，オチ前とそれ以外の部分で比較した結果，笑いの有無に関わらずオチ前で間の長さが長いという傾向が見られた．それに加え，笑いが起こらなかった話では発話時間が短く，笑いが起こった話では有意差は確認できなかったが発話時間が長くなっていた．しかし，これらは話の中での変化であり，笑いが起こった話は平均的に間が長く発話が短いという傾向があることを考慮する必要がある．そこで，間と発話の比率を比較した結果，発話が短く間が長いという傾向に当てはまっているのは，オチ前とそれ以外の両方で笑いが起こった話であった．笑いが起こった話はオチで盛り上がりを演出するために発話が長くなっていると考えられるが，それ以上に間を伸ばすことによって，理解度を損ねないようにしているといえる．

（指導教員　　真栄城 哲也）